

2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年10月31日

上場会社名 株式会社セキド 上場取引所 東

コード番号 9878 URL http://www.sekido.com/ir/index.php

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)関戸 正実

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 弓削 英昭 TEL 03-6300-6335

半期報告書提出予定日 2025年11月4日 配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無:無 決算説明会開催の有無:無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の業績(2025年3月21日~2025年9月20日)

(1)経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益	益	中間純利益		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
2026年3月期中間期	2, 837	_	△244	_	△282	_	△293	_	
2025年3月期中間期	_	_	_	_	_	_	_	_	

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△120. 40	-
2025年3月期中間期	_	-

⁽注) 2025年3月期第4四半期より非連結決算に移行したため、2026年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率及び 2025年3月期第2四半期の数値については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	5, 104	744	14. 5
2025年3月期	4, 769	233	4. 8

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 741百万円 2025年3月期 230百万円

2. 配当の状況

		年間配当金								
	第1四半期末	第 1 四半期末 第 3 四半期末 期末 合計								
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭					
2025年3月期	_	0.00	_	0.00	0. 00					
2026年3月期	_	0.00								
2026年3月期(予想)			_	0.00	0.00					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無:無

3. 2026年3月期の業績予想(2025年3月21日~2026年3月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	7, 630	1. 8	80	_	24	_	4	_	1. 36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無:無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用:無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無② ①以外の会計方針の変更 : 無③ 会計上の見積りの変更 : 無④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料 P.7 「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3)四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(3)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

2026年3月期中間期	2, 950, 228株	2025年3月期	2, 040, 928株
2026年3月期中間期	3,616株	2025年3月期	3,586株
2026年3月期中間期	2, 438, 094株	2025年3月期中間期	2, 037, 354株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、〔添付資料〕3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 糸	径岸	宮成績等の概況	2
(]	1)	当中間期の経営成績の概況	2
(2	2)	当中間期の財政状態の概況	3
(;	3)	業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 🗆	申間	引財務諸表及び主な注記	4
(]	1)	中間貸借対照表	4
(2	2)	中間損益計算書	6
(;	3)	中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4	4)	中間財務諸表に関する注記事項	8
		(会計方針の変更に関する注記)	8
		(セグメント情報等の注記)	8
		(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
		(継続企業の前提に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間における当社の経営成績の概況は次のとおりであります。なお、当社は、前事業年度第4四半期会計期間より非連結決算に移行したため、前年同期比較は記載しておりません。

当中間会計期間におけるわが国の経済は、長引く国際紛争や物価高騰など、個人消費や企業業績への影響が懸念される状況が続いております。

このような環境下、当社は、赤字決算となった2025年3月期からの業績回復を期し、主力事業であるファッション事業(店舗運営事業)と美容事業のそれぞれの課題に取組んでおります。

ファッション事業(店舗運営事業)においては、「GINZA LoveLove」の各店舗で自社アプリやSNS等を利用し、WEBチラシによる会員様への購買促進を強化しております。具体的には、購買履歴データをAI解析して会員様に適正な価格帯での「新商品のご案内」「セール情報」など、週30本以上のプッシュ通知を実施して、既存会員様のリピート率向上に努めております。また、「&choa!」店舗においては、2025年5月末に新規店舗1店舗の出店と9月にはショッピングセンター内の区画増床移転によるリニューアルオープンを行うとともに、冬の美容シーズンに向けてさらに認知度の向上を図り、当社ECサイトを含むWEBサイトへの誘導を目的に店外催事を定期的に行ってまいります。通販部門では、世界114カ国・地域への販売が可能な「Buyee Connect」を導入し、越境ECを開始いたしました。さらに、インフルエンサー施策やソーシャルギフト機能の導入も検討し、グローバルな販路拡大とブランド認知度の向上を図り、売上・利益の成長を目指してまいります。

美容事業においては、美顔器シリーズで韓国シェアNO.1ブランド「medicube (メディキューブ)」の国内オフラインでの展開を強化し、2025年4月には待望の定価1万円(税抜)の新商品も投入しております。また、今年に入って、韓国で大人の女性に人気のラグジュアリーコスメブランド「KAHI (カヒ)」、ヴィーガンコスメブランド「athé (アッテ)」並びにスキンケアブランド「MEDIPEEL (メディピール)」の3つの韓国コスメブランドの日本総代理店となり、当該コスメブランド商品の取扱いも本格的に開始したところであります。

その中で当社は、2025年5月23日付「第三者割当により発行される第15回乃至第17回新株予約権(行使価額修正条項及び行使停止条項付)の発行及び新株予約権の第三者割当契約の締結に関するお知らせ」で開示したとおり、輸入総代理店新規取扱い商材の増加運転資金と韓国コスメセレクトショップ『&choa!』新規店舗出店資金を資金使途として新株予約権を発行し、2025年8月14日までに当該新株予約権の全ての行使が完了いたしました。今後、これにより調達した資金を上記資金使途に充当し、業績の早期回復に努めてまいります。

これらの結果、当中間会計期間の経営成績は、売上高は2,837百万円、総額表示による売上高は3,237百万円となりました。利益面では、美容事業の新規ブランドの売上高は拡大中ですが、まだ、損益分岐点売上高までは届いておらず、営業損失は244百万円、経常損失は282百万円、法人税等を10百万円計上した結果、中間純損失は293百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

「ファッション事業]

ファッション事業においては、韓国コスメのセレクトショップ『&choa!』では、1店舗の出店を行ったほか、ショッピングモール内の区画移転に伴う増床リニューアルを1店舗行いました。また、輸入ブランド専門店『GINZA LoveLove』では、路面店舗1店舗を閉店しております。営業面では、『GINZA LoveLove』で効果が見られた、AIを使った顧客データ解析による再来店促進施策を『&choa!』に導入し、リピーターの増加に取組んでおります。しかしながら、物価高騰による個人消費への影響か、中高額帯商品の動きが落ち込んだことで、売上高は1,807百万円、総額表示による売上高は2,207百万円、セグメント損失は26百万円となりました。

「美容事業」

「外商〕

美容事業においては、新規ブランドの中では価格戦略により美顔器の「medicube (メディキューブ)」が牽引し売上高の拡大フェーズに入りつつあり、売上高は909百万円、セグメント損失は8百万円となりました。

[賃貸部門] 賃貸部門においては、売上高は17百万円、セグメント利益は15百万円となりました。

外商部門では、売上高は102百万円、セグメント利益は8百万円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間会計期間末の資産につきましては、総資産は5,104百万円となり、前事業年度末に比べ334百万円増加いたしました。これは主に、滞留在庫の消化が進んだことなどにより、商品が185百万円減少しましたが、売掛金が27百万円増加したほか、新株予約権による資金調達などで現金及び預金が448百万円増加したこと、『&choa!』の新規出店や区画移転リニューアルなどで有形固定資産が38百万円増加したことなどによるものであります。

(負債)

当中間会計期間末の負債につきましては、負債合計は4,360百万円となり、前事業年度末に比べ175百万円減少いたしました。これは主に、前事業年度末に既存ブランドの終息に備え、一時的に増加した預り金が商品の消化に伴い139百万円減少したほか、新規ブランドの増加運転資金などで短期借入金の増加62百万円と社債の償還35百万円、1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金の返済74百万円などによるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産につきましては、純資産合計は744百万円となり、前事業年度末に比べ510百万円増加いたしました。これは主に、中間純損失293百万円の計上と新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ395百万円増加したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は14.5%(前事業年度末は4.8%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期第2四半期(2025年3月21日~2025年9月20日)の業績につきましては、ファッション事業(店舗運営事業)においては、時計やバッグなどで高価格帯の商品が苦戦するなど、売上高が計画未達となりました。

一方、4つの新規ブランドの内、美顔器の『メディキューブ』は、価格面での競争力を発揮し、好調な推移を見せておりますが、『KAHI』、『Athe』、『MEDIPEEL』については、本格的な展開はこれからというところで、美容事業でも売上計画には届かず、売上高は、計画を603百万円下回り、2,837百万円となりました。利益面では、売上未達の影響により、営業損失は244百万円、経常損失は282百万円、中間純損失は293百万円とそれぞれ200百万円程度の未達となりました。

未達となった売上高はこれからピークを迎える年末、年始商戦を含む下半期に取り返すべく、一つひとつの課題に取り組んでまいります。2025年5月7日に「2025年3月期決算短信」において公表した通期の業績予想に変更はございません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1)中間貸借対照表

(単位 <u>:</u> 千円)

		(単位・1円)
	前事業年度 (2025年3月20日)	当中間会計期間 (2025年9月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	504, 166	953, 124
売掛金	515, 151	542, 325
商品	2, 274, 581	2, 088, 591
預け金	129, 168	121,770
その他	144, 699	161, 035
貸倒引当金	△15, 798	△15, 884
流動資産合計	3, 551, 968	3, 850, 962
固定資產		
有形固定資産		
建物(純額)	195, 781	218, 003
工具、器具及び備品(純額)	63, 077	79, 969
土地	429, 273	429, 273
リース資産 (純額)	2,778	2, 315
有形固定資産合計	690, 909	729, 560
無形固定資産		
ソフトウエア	14, 486	10, 901
無形固定資産合計	14, 486	10, 901
投資その他の資産		
投資有価証券	124, 088	138, 899
関係会社株式	15, 000	15, 000
差入保証金	350, 766	338, 635
その他	22, 355	20, 564
投資その他の資産合計	512, 211	513, 099
固定資産合計	1, 217, 607	1, 253, 561
資産合計	4, 769, 575	5, 104, 524
		-

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年3月20日)	当中間会計期間 (2025年9月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	489, 467	477, 084
短期借入金	2, 390, 637	2, 453, 300
1年内償還予定の社債	70, 000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	133, 228	106, 572
リース債務	2, 797	2, 356
未払金	198, 679	224, 606
未払法人税等	19, 300	17, 956
預り金	223, 297	83, 317
契約負債	15, 957	17, 166
その他	41, 155	64, 180
流動負債合計	3, 584, 519	3, 516, 540
固定負債		
社債	185, 000	150, 000
長期借入金	321, 103	272, 815
リース債務	3, 892	2, 79
繰延税金負債	20, 295	24, 229
退職給付引当金	90, 116	79, 869
役員退職慰労引当金	109, 800	109, 800
資産除去債務	139, 152	132, 09
長期預り保証金	29, 980	29, 980
長期未払金	52, 309	42, 354
固定負債合計	951, 649	843, 937
負債合計	4, 536, 169	4, 360, 478
純資産の部		
株主資本		
資本金	10, 000	405, 866
資本剰余金	504, 378	900, 244
利益剰余金	∆349, 284	△642, 842
自己株式	△5, 060	△5, 083
株主資本合計	160, 033	658, 184
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	70, 334	82, 826
評価・換算差額等合計	70, 334	82, 826
新株予約権	3, 037	3, 034
純資産合計	233, 406	744, 046
負債純資産合計	4, 769, 575	5, 104, 524

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	(十1年・111)
	当中間会計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年9月20日)
売上高	2, 837, 195
売上原価	2, 077, 380
売上総利益	759, 815
販売費及び一般管理費	1, 003, 926
営業損失(△)	△244, 110
営業外収益	
受取利息	263
受取配当金	2, 438
その他	4, 343
営業外収益合計	7, 045
営業外費用	
支払利息	29, 314
社債利息	857
新株予約権発行費	12, 907
その他	2, 852
営業外費用合計	45, 931
経常損失 (△)	△282, 996
税引前中間純損失 (△)	△282, 996
法人税、住民税及び事業税	8, 946
法人税等調整額	1,615
法人税等合計	10, 561
中間純損失 (△)	<u>△293, 557</u>

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

当中間会計期間 (自 2025年3月21日 至 2025年9月20日)

	至 2025年9月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純損失 (△)	△282, 996
減価償却費	29, 843
貸倒引当金の増減額(△は減少)	85
受取利息及び受取配当金	$\triangle 2,701$
支払利息及び社債利息	30, 171
売上債権の増減額(△は増加)	△25, 965
棚卸資産の増減額(△は増加)	185, 990
仕入債務の増減額(△は減少)	$\triangle 4,576$
その他	△149, 686
小計	△219, 835
利息及び配当金の受取額	2, 871
利息の支払額	△30, 108
法人税等の支払額	△10, 289
営業活動によるキャッシュ・フロー	△257, 362
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△35, 097
差入保証金の差入による支出	$\triangle 1,956$
差入保証金の回収による収入	14, 085
資産除去債務の履行による支出	△3, 117
その他	△234
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26, 319
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	62, 663
長期借入金の返済による支出	△74, 944
社債の償還による支出	△35, 000
新株予約権の発行による収入	699
新株予約権の行使による株式の発行による収入	791, 030
配当金の支払額	$\triangle 1,039$
その他	△10, 802
財務活動によるキャッシュ・フロー	732, 607
現金及び現金同等物に係る換算差額	32
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	448, 958
現金及び現金同等物の期首残高	504, 166
現金及び現金同等物の中間期末残高	953, 124

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる中間財務諸表に与える影響はありません。

また、会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間会計期間及び前会計年度については遡及適用後の中間財務諸表及び財務諸表となっております。これによる前中間会計期間の中間財務諸表及び前会計年度の財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当中間会計期間(自2025年3月21日至2025年9月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

		報		調整額			
	ファッション	美容	賃貸部門	外商	計	神 (注) 1	合計
売上高							
顧客との契約から生じる収 益	1, 807, 562	909, 162	_	102, 770	2, 819, 495	_	2, 819, 495
その他の収益	_	_	17, 700	_	17, 700	_	17, 700
外部顧客への売上高	1, 807, 562	909, 162	17, 700	102, 770	2, 837, 195	_	2, 837, 195
セグメント間の内部売上高 又は振替高	_	l	-	_	_	_	_
= +	1, 807, 562	909, 162	17, 700	102, 770	2, 837, 195	_	2, 837, 195
セグメント利益又は損失 (△)	△26, 270	△8, 760	15, 359	8, 897	△10,774	△272, 222	△282, 996

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△272,222千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。
 - 2. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の経常損失としております。
- 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報 該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間会計期間から、「その他」部門としていた「外商」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年5月23日開催の取締役会において、EVO FUNDを割当先とする第15回乃至第17回新株予約権(以下、「本新株予約権」という。)を発行することを決議し、2025年6月9日付で新株予約権買取契約を締結し、同日付で発行価額の総額の払込を受けました。また、2025年6月16日より2025年8月14日までの期間に本新株予約権の行使が全て完了いたしました。この結果、当中間会計期間において資本金が395,866千円、資本準備金が395,866千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。